

講義コード		科目区分	基礎教育科目
(フリガナ)	ゲイジツツブンカロン	(フリガナ)	セオ タカシ
授業科目名	芸術文化論①	担当教員名	瀬尾 尚史
英文授業科目名	Art and culture		
基準年次(開講期)	1年(前期)	履修形態	選択
曜日/時限/講義室	金4限/浅草		
授業の方法	講義	授業の方法 (詳細情報)	講義
単位	2	週時間	2
授業のキーワード	映像文化、写真、映画、ドキュメンタリー、メディア		
授業概要・目的	この授業では、外国人が撮影をした日本の映像を分析することで、映像を通して世界を見ることの意味や、その問題点を探っていく。そこから、人間にとって文化とは何か、映像とは何かを理解し、それを受講者自身の関心に応用できるようにすることを目的としている。そのために、受講者は単に講義を聴くだけでなく、数回にわたって課題に応じた映像を撮影し、それにコメントを付けて提出することを求められる。		
到達度評価の評価項目	映像を通して異文化を理解することの意義を理解している。 異文化だけではなく、自らの文化を客観的に捉え、批判的に検討することができる。		
授業計画			
第1回	イントロダクション 授業の進め方と、映像とは何かについて。		
第2回	映像文化の始まり 映像の起源と、総合芸術としての映画について。		
第3回	外国人が見た明治の日本① コンスタン・ジレルが写した日本について(その1)。		
第4回	外国人が見た明治の日本② コンスタン・ジレルが写した日本について(その2)。		
第5回	外国人が見た明治の日本③ ガブリエル・ヴェールが写した日本について(その1)。		
第6回	外国人が見た明治の日本④ ガブリエル・ヴェールが写した日本について(その2)。		
第7回	ある異邦人の眼差し① クリス・マルケルが写した日本、『サン・ソレイユ』について。		
第8回	ある異邦人の眼差し② ヴィム・ヴェンダースが写した日本、『東京画』について。		
第9回	ある異邦人の眼差し③ ソフィア・コッポラが写した日本『ロスト・イン・トランスレーション』について(その1)。		
第10回	ある異邦人の眼差し④ ソフィア・コッポラが写した日本『ロスト・イン・トランスレーション』について(その2)。		
第11回	映画と記憶① 映画の中の「古き良き日本」について(その1)。		
第12回	映画と記憶② 映画の中の「古き良き日本」について(その2)。		
第13回	映像と歴史① ニュース映像が捉えた歴史的出来事について(その1)。		
第14回	映像と歴史② ニュース映像が捉えた歴史的出来事について(その2)。		
第15回	まとめ 21世紀における映像の新たな役割について。		
教科書・参考書等	蓮實重彦(編)『リュミエール元年—ガブリエル・ヴェールと映画の歴史』(筑摩書房)		
授業で使用する機器等	毎回、映像作品の抜粋を鑑賞する。		
予習・復習へのアドバイス	授業で取り上げた映画作品について調べておく。		
履修上の注意・受講条件等			
成績評価の基準等	数回の写真提出とレポート課題(80%)と授業に取り組む姿勢(20%)によって評価をする。		
メッセージ	言うまでもないことですが、授業中の私語、スマホの使用、遅刻は厳禁です。		
オフィスアワー	質問等は、授業の後に対応します。		
その他			